

令和4年度 学校だより 11月号 10月31日発行

横浜市中区山元町3-152  
電話 641-4857



# やまもと

横浜市立山元小学校  
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

## 共に育つ

児童支援専任 平本 美峰

朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

先日の第6地区健民祭では、本校の子どもたちや卒業生の雄姿を見ることができました。子どもたちがたくさんの競技に張り切って参加していたり、応援席で地域の方と一緒に応援したりしている姿をほほえましく思うと同時に、少し大人の顔をした卒業生が元気に活躍し、後輩の小学生をかわいがっている様子を見て、山元の地域にある『温かさ』を感じました。そして、「山元の子どもたちは、地域で育てられ、地域とつながっている。」と実感しました。世代を超え、多くの方々と触れ合い、そのよさを受け継いでいる山元の地域のよさに、改めて感謝した一日になりました。

今年度、児童支援専任として子どもたちに接し始めて半年が過ぎました。子どもたちの様々な場面に対応しながら、「自分には、まだまだ足りないところばかりだ。」と反省し勉強しているところです。

先日、校外での研修の際、講師に「これからの未来を考え、どんな子どもたちを育てていくか。」と問いかけられました。よく『自ら課題を見付け解決していく子どもを育てる』などと言われますし、私も似たようなことを考えました。しかし、講師は、「これから高齢者が多くなる時代になる。そんな時、迅速に、そして効率的に動くなど、難しいことは分かり切っている。周囲の人を見て、ペースを合わせる、待つことが求められる。つまり、ゆっくり粘り強く取り組む子どもに育ててほしい。」と話されました。様々な考え方がありますが、この話に納得すると同時に、

自分自身を振り返りました。広い目で子どもを観ようと意識していますが、できることが増えたり、早くできたりすることに価値を置き、子どもたちを評価してしまう見方があったと思います。子どものためと思い、言ったりやったりしたことが決してそうではなかったかもしれません。

子どもたちが大人になって活躍する社会は、共生社会です。自分の可能性を認めながら、あらゆる他者を価値あるものとして尊重し協働していく社会です。子どもたちの周りには自分とは違う価値観をもつ人が少なからず存在し、いつか出会うことでしょう。そんな時に、「なるほど。」「おもしろい。」と受け止め、自分にできる接し方を実践してほしいと思います。その基礎を山元の子どもたちは、学校や地域の中で少しずつ育んでいると思います。

今年度も折り返し地点を過ぎました。子どもたちは、なりたい自分に向かって様々なことにチャレンジしていくと思います。その成長を一緒に支えていただいていることに感謝しています。今後もよろしくお願ひします。



## ボランティアさん、よろしくお願ひします

今年度は、コロナ対策を取りながらボランティアの皆さんに来校していただいています。農園ボランティアさんには1カ月に2回、おいしい野菜を育てようとしている子どもたちに力を貸していただいています。読み聞かせボランティアさんの活動は録画での読み聞かせでしたが、10月から教室に訪問し対面での読み聞かせが始まりました。1年生だけでなく2・3年生にとっても目の前で本を読んでもらう体験は初めてです。真剣に耳を傾けていました。

